

RyuMJC PROGRAM 2017



研修医の声 プログラム「美ぎ島」

やすとみ ゆいこ

2年目 安富 由衣子
No.6



宮古島 は母の出身地で、私自身幼少期から毎年のように訪れていたため、もともとふるさとのように親しんでいました。何かしらの形で医療者として宮古島に関わりたいと思っており、宮古病院が研修指定病院と知って以来研修先に希望するようになりました。また私は病理志望だったので、大学で病理部を回るために琉球大学病院での研修が前提でした。プログラム「ていだ」でローテーションしても良かったのですが、その場合は目安として宮古病院での研修は3か月程度になってしまいがちであることと、また同期に宮古病院での研修を希望している人が多かったため、確実に宮古病院で研修できるとは限りませんでした。ところが、

宮古病院と琉大病院を1年ずつ回ることができる美ぎ島プログラムの事を知って、「できるだけ長く宮古病院に勤めることで母の故郷への恩返しをしたい」、「上の先生方やコメディカルの方々にも顔を覚えてもらいたい」という気持ちから美ぎ島プログラムでの研修を考えるようになりました。

見学に行ってみると、**医師とコメディカルの方々の距離がとても近く、アットホームな病院であると感じました。** 県外も含めた他院から救急や地域医療研修などで研修医を多数受け入れており、**研修医を歓迎してくれる空気**がありました。忙しいと聞いてはいましたが、ここなら1年頑張れるかもしれないと思い美ぎ島プログラムでの研修を決意しました。はじめの4-6月は琉大病院で内科をローテーションした後、7月から宮古病院の内科からスタートしました。県立中部病院や琉大病院からいらしている先生方が多く、内科では中部病院の先生2人、琉大病院の先生1人のグループに所属させていただく形になりました。

中部病院出身の先生は怖いのではないかと恐れていたのですが、多少の注意は受けたものの理不尽に怒鳴られたりなどはなく、フレンドリーな先生方だったのでのびのびとした気持ちで研修ができました。

救急科や麻酔科など色々回らせていただきましたが無視したり邪険に扱ったりする先生はいなかったように感じます。看護師さんたちもとても仕事が早くて、たくさん助けてもらいました。1年間色々な場面で怒られることもありましたが、それも愛情が故に私のためを思ってくれて叱っていることが感じられました。宮古病院で2年間研修できるプログラムがちょうど開始していて、唯一1年間一緒だった同期が1人だけいましたが、彼とは苦楽を共にして互いに支えになっていたと思います。

当直は月に6回程度あり、内科、外科、小児科のファーストタッチを研修医ができます。検査などもある程度自由にさせてもらえます。それぞれ上級医の先生がついていてくれるので、分からないことや不安なことがあってもフォローしていただけます。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目	第一内科 琉球大学医学部附属病院			内科 沖縄県立宮古病院			救急科			麻酔科		外科
2年目	小児科	精神科	地域医療	病理診断科		第三内科	救急科	精神科	第三内科		第一内科	

患者さんはたくさん来るので（だいたい一晩に20-30人くらいだったと思います）あまり眠れないですし、カルテがたまると大変ですが、その分**とっても鍛えられます**。島内ではほぼ唯一の救急病院であり、患者さんが宮古病院に集まりますのでカルテレビューがしやすく、帰した患者さんが翌日重症化して来院することもあります。自分の診療が間違っていなかったかわかる。これは、本島内の病院ではなかなか感じることをできない、離島病院ならではの**特徴だ**と思います。本島内宮古病院は、**こちらが頑張ろうという姿勢でのぞむと、上級医の先生もしっかり返してくれる**ところです。体力的には大変だと感じることもありますが、それでも研修生活を実りあるものにしたいたい人にはおすすめします。少しでも考えている方は、私でよければささいな事でも答えますので、いつでもおしゃべりにいらっしゃってください。